

音曲

竹譜一節

卷

竹草菴輯著  
長谷川貞信畫圖  
和田正兵衛筆工

音  
曲  
仲  
乃  
一  
節

浪華  
金隨堂梓



一名佐和里都二  
以津初編全三冊

序

おん 木のこゑや 古く 和を 楽しむ

解 表や 祖と 御に 心な けり 余は 我のよ

母 由來と 妻と 和ら お茶 待ひ

今 一 たる 南 風 来を と たり けり

鈴 子 玉を 呼ぶ 余は 心のよ

鳴 も 和 袖 小 巧 具を けり 余は 我のよ

の 日 枝を 敷き けり 余は 我のよ









小野通詠歌藏書寫

新  
 乃  
 乃  
 乃  
 乃

右予舊藏版ふち通か  
 文章ちるめり申  
 奇ぢやと撰てそ羨  
 表寸其筆ヤゆりく  
 従横ちるとんた妙筆り

金隨堂主人



天正のちろ小野通一呼

七女つ元織田ちち付

仕革命の後豊太閤

の侍女う高基屋院

殿其稀也愛すそ

源氏物活にちち

ゆらふ著ゆ命ゆ

三河矢野の長者う娘

淨瑠理姐源の牛若

丸懸想下始末と

...



長生殿士阪の物語と号  
 奉<sup>ほう</sup>之<sup>の</sup>名<sup>な</sup>と浄<sup>じやう</sup>ろ<sup>ろ</sup>物<sup>もの</sup>浩<sup>こう</sup>  
 とのり身<sup>み</sup>浄<sup>じやう</sup>ろ<sup>ろ</sup>起<sup>おこ</sup>元<sup>もと</sup>  
 改<sup>か</sup>の<sup>の</sup>當<sup>たう</sup>道<sup>だう</sup>の<sup>の</sup>用<sup>よう</sup>祖<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>後<sup>ご</sup>  
 塩<sup>し</sup>川<sup>か</sup>志<sup>し</sup>摩<sup>ま</sup>守<sup>しゆ</sup>の<sup>の</sup>嫁<sup>よめ</sup>男<sup>おとこ</sup>女<sup>め</sup>  
 文<sup>ぶん</sup>産<sup>さん</sup>娘<sup>むすめ</sup>伏<sup>ふ</sup>女<sup>にょ</sup>秀<sup>しゆ</sup>戈<sup>が</sup>守<sup>しゆ</sup>と<sup>と</sup>  
 徳<sup>とく</sup>産<sup>さん</sup>子<sup>こ</sup>達<sup>たち</sup>一<sup>いつ</sup>艶<sup>えん</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>  
 鳴<sup>な</sup>呼<sup>こ</sup>不<sup>ふ</sup>幸<sup>しやう</sup>に<sup>に</sup>て<sup>て</sup>戦<sup>せん</sup>国<sup>こく</sup>  
 の<sup>の</sup>文<sup>ぶん</sup>筆<sup>ひつ</sup>負<sup>お</sup>け<sup>け</sup>産<sup>さん</sup>上<sup>じやう</sup>世<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>  
 放<sup>はう</sup>文<sup>ぶん</sup>盛<sup>せい</sup>ち<sup>ち</sup>代<sup>だい</sup>育<sup>いく</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>  
 雲<sup>うん</sup>女<sup>にょ</sup>程<sup>ほど</sup>を<sup>を</sup>遠<sup>とほ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>



浄瑠璃 中興作者 近松門左衛門

夫辞世去やど

そのほみ  
のころ様の  
まあ

浄瑠璃太夫 三越元祖 角澤檢校



あ  
な

都々一  
元祖 塚隆達

とら

い

ふん  
うら  
月

あまの  
あまの

あまの  
あまの

あまの  
あまの

あまの  
あまの



○  
○  
浄瑠璃太夫  
并三弦元祖

角澤檢校

性國泉及甥  
三絃小手紳

△此角澤は澤をゆく鶴澤豊澤是より出い  
小奇にのま令りしが古岩船檢校といふ者琵琶の名人なり  
或時豊太閤の政所彼の十二段物が有り御覽し其文也  
但ちぬ感掌はしく彼岩船にわく節をつけ  
と世聞てはまひくといふ其志は三味線といふものたぐ右に  
手は爪をさし扇の骨をそりかき鳴り相子とらわたり其扇  
此角澤初めておまを三味線ふ合せて治り出さしる漸より節  
と々專ら世にまひるをてつをびつりふ此曲の惣名をたかり

ドー  
ろろろろろろろ

ろろろろろろろ

井澤四

おとうすおはあはあ

じりせあはあはあ

んああああああ

あはあああああ

あはあああああ

あはあああああ

あはあああ

あはあああ



八重

ド一すのふとろと

千両戯 男ふのてふ

江戸長崎のさくらを

男まひのさくらを

多ふふとてむら

けののちねたむら

後ふふとてむら

らふふとてむら

所時やとてむら

人三葉

いさ川

おとこ

真上

男山

園西

勝男節

福門



いさ川

日ハ おのひさくれとち  
むうのそよ

時辰

そちちあまのつらき

か初むつとるあまのつらき

あまのつらきあまのつらき

あまのつらきあまのつらき

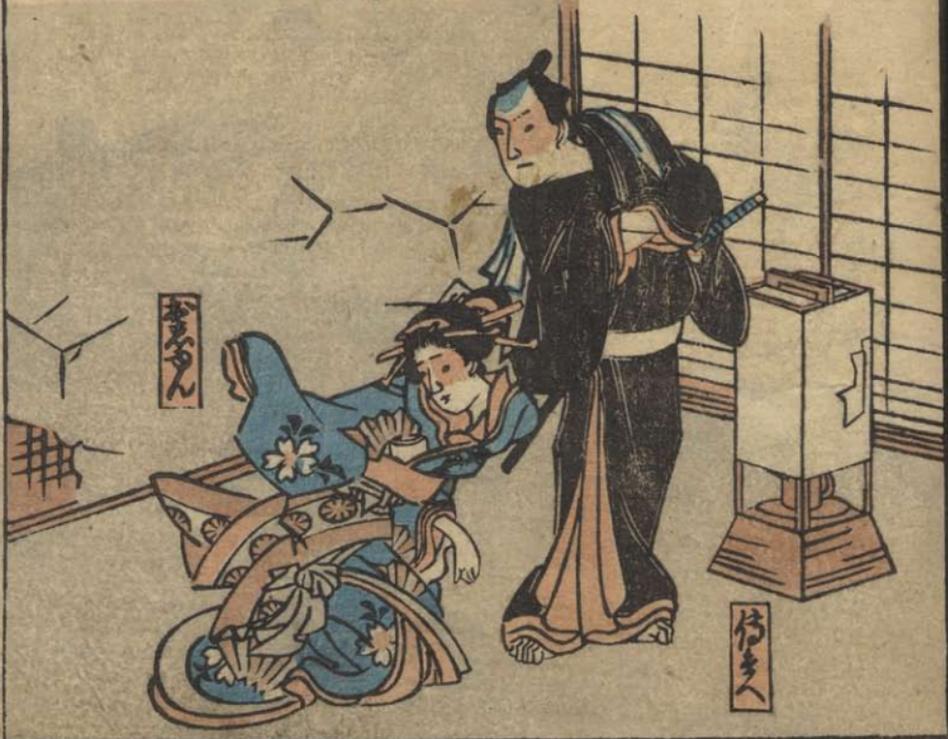
あまのつらきあまのつらき

あまのつらきあまのつらき

あまのつらきあまのつらき

あまのつらきあまのつらき

ナハリカ編



二

コヨシ

むすめを託

こゝ下とて

聖徳村

余のあひまを

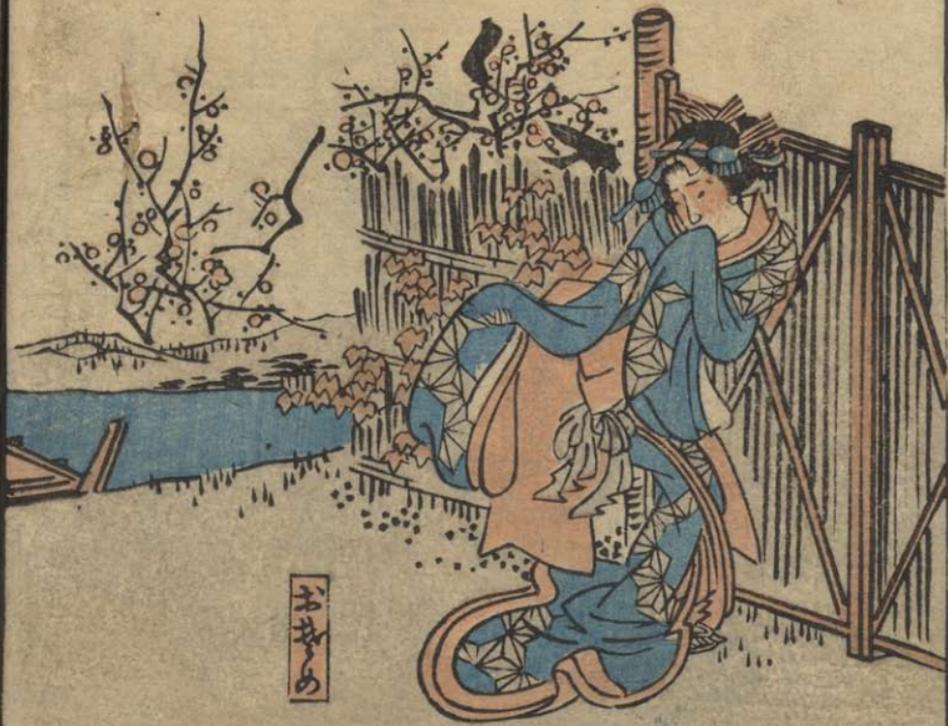
うさめ祥あは

あうねあは

ついであひま

あやみ

つれあひま



土井の

コノ  
おとろぬこしちと  
千本すや  
ありのわかれさ

なごころれ七死

ぬきごとて雲舞

ちうんは友とら

おびすめがれ

らるまら

とくひ女府の

あるおろ



十八の力編

ヨシ  
コノ

おのゝつゝゝゝゝ

あゝあゝあゝ

船良宮や

又もむらさき  
心こころ あふさう のそだち

ゆづるまはの園遊楽  
上あめ ち の カン の と

主の海を舟乗尾張  
中なか ウ ウ ウ

いゝまわらばはな  
中なか ウ ウ ウ

おどほつがめあわも  
おどほつがめあわも

おまはらばはな  
おまはらばはな

い川にお中へよ大井川



みゆさこ

ヨシノ あらとらりやう

そのわくしてごら

白木を

そまやままなむえん換

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ

あまじつごそのあふ



ナツリカ

サロリ 春 繪

ヨシ

昔うらまひの

とねわごとしをも

とらう様お

つたうらまひの

あちうらまひの

あちうらまひの

あちうらまひの

あちうらまひの

うまひ二人

うまひ二人



ヨシ

コバシ  
アツれうがせと

あつこく保せんす

安達三

お尋ひなまゝ入死

おれはごき交も執

のおれに背じ執ひ死

おのまはも別れ

つぎる目か多

くちうするをう

おやねをち



お尋

安達

コハシ つのる 忠告

忠告 うき由こしく

てはらふ つちまふ 忠告

とくまふ サリウ 別れ

おきもの ウキウシ びやう

あのみ ウキウシ 身同

く ウキウシ 床さあ

たる ウキウシ とう

とけく ウキウシ さあ

浮世草子  
伊勢物語  
内閣



とあ

いあ



ヨシ  
コノ

おやまへのうかえせ

あつマかれて

紙込内

かりあんせくそ

かきごがあま川へ

流ささう小なるが

くえでのまわらぶ

いんをすするの  
めしれとえん



おさん

流さく

ヨシ  
コシ  
たゆらうそを尾して

あつる中一と

三浦別の後

あつる中一と

三浦別の後  
あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

あつる中一と

三浦

あつる中一と





コハ  
ませうとせせて

ねんき  
うれしとあめや

こがれとあつる恋

ひととせふあま

夢の疾のとき

ちとつみわりの

ころも

やこもあつる

あゆみ

ナツリ  
物編



ヨシ

あめでうらぐんご

本園記ニ

あやしのこころ

うらまゝのていもつと  
 おなじ世を我々も  
 あれがたがたかた  
 があつたつとつと  
 子あれとひとと  
 ああといとさう

ちんのちんそぞ

よそやうへ



うんか

あや

コノ コノ やまのうらむらんと  
 大塚九十 大塚九十 子 子 かくくくくくく

二重も三重もめうと  
 おもたおもたに情 おもたおもたに情  
 かゝるやぬがはな かゝるやぬがはな  
 わらわつとくぬ先 わらわつとくぬ先  
 うしとぬ うしとぬ

やうのころや実 やうのころや実  
 うがまねあやら うがまねあやら



十  
 改  
 元

か  
 ぞ  
 く

ヨシ

恋のよくつら

大急ぎ

おつとれのこと

大急ぎ

おつとれのこと

つれや切る杖  
 心ちかたすまじや  
 と糸んごのもも  
 つはもろじに世の  
 実かあごのうら  
 つまぬめが

あめひととごも

あめひととごも



此方ほは

遠東は

ヨシ  
 きげんやくなど  
 られしこましく  
 杉ゆや

お米も方年ものさ

ぬらびつとちいさうさ

を物染りつううほせ

の味もなまぬ在平

をぢぬはじまものひ

ろとそとあれるなぬ

めんおよの目め

絲らりやせぬ

来る

おまの



ヨシ

の谷

やうそくどく  
りあむごころ

後おもゆじりごとが

今生後まのあひま

ひまのあんごころ

おもまをせごころ

涙とびせごころ

まご

くわーあまら

そごーあま

然谷

おとろ



三ツ、さしつかへなく

おやうおやう

さかすかす

あはれ

うらやま

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



あはれ

ヨシ  
あうりこせむ

こころのうらみ

浪の長

あうりこせむ

めまじりこせむ

あうりこせむ

あうりこせむ

あうりこせむ

あうりこせむ

あうりこせむ

あうりこせむ



十さく

糸さく

および

三三 道船とまのり

まのり

おき

まのり秋のつづらふ

のそめどほおき

あゝ雅美のなまのり

おののぬとあひか

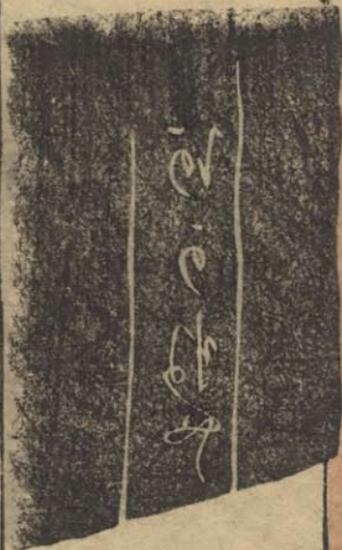
からみ終かりてさし

中人あま

あまのいす

どうのまのり

オノリ物編



あまのいす

あまのいす

止

ヨシ ちりやちり

あやとくれうね

係任の成り

ひんがしあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

そであつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた



ヨレ  
 國時命 あまひぐけのみこと  
 ちりまきさる

三手 よ 金 か 花 は の の あり あ り  
 は は 舞 ま の の 野 の 面 め あり あ り  
 の の や や 冥 めい 遠 えん だ だ あり あ り  
 の の と と 如 に ぬ ぬ り り ぐ ぐ ち ち あり あ り  
 花 は び び け け だ だ じ じ け け あり あ り  
 来 き の の 疾 は ひ ひ ち ち あり あ り

う う ら ら ぐ ぐ づ づ ー ー ぬ ぬ  
 ち ち り り ま ま き き さ さ る る



常  
 祥  
 女

ち  
 り  
 ま  
 き  
 さ  
 る

三

ヨレ 茶屋やせらんと

蜂谷の三 いよひのせぬが

花のともな中填みぬ

心のおとろかりと花籠

男雛も来ふまゝ夕

の透波ぬわははぬ

お方あがしほのゆめ

ゆはひつゝひたぬ

ふとむひとそが

やうらゝんぬ



ヨシ  
コノ

こころさんかま

おせんのおんこ

せんげん

あんなあつとあつ

ゆえゆえあつとあつ

おれどがあつとあつ

あつとあつとあつとあつ

ちあつとあつとあつ

あつとあつとあつ



おせん

おせん

干草

ヨシ

こころ  
うらみまへ

い

歌分はたはまの思はれが

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ

うらみまへはるの思はれ



おそで

ヨシ

人のいんも

火あはせも

わらわ

うたといあま

かどふせうの

咲むい

引えてあそ

ちらぶき

あひ

意の

あ



十八

上

ヨシ

のぼりつめさる

二つのおちちご

ちみやの辰

あどれ疾うれの漏

乳せんらむらぬ

釈つるたどぬ

やまけとあ

みしらちしと

今さらめがさめ

あささめ





